

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

おはようございます。登壇の許可を得ましたので、ただいまより山口裕子の一般質問を始めさせていただきます。

最近になって、先ほど一般質問もありましたように、命のとうとさというところでいま一度、私自身、大人たちがもっと真剣に取り組まなければいけないんじゃないかという問題がいろいろ起こっております。

最近、テレビ番組でしたが、飲酒運転による被害に遭われて、高校生2人が部活の帰りに飲酒運転の車にはねられて、亡くされたお母さんが、この子が今まで生きてきた意味として、あかしとして、何だったろうということで、撲滅運動をみずから、自分が率先して、まだ亡くなられて間もないのに、そういう活動されている番組がありました。

あと、先ほどのいじめとかで子どもが亡くなっていく。私は女性として、本当に命を産み、それで育み、そして守っていかないといけない。お父さんたちもみんな一緒だと思いますが、やはり自分も安産であろうが難産であろうが、子どもを産むときに、やっぱり命がけで向かうわけですね。私も4人の子どもを産み育てておりますが、そのときに、こんな悲惨なですね、大人のモラルとか、いろんな社会状況によって命が自分のところからさらわれていくという状況を得たときに、本当に、先ほどの市長の答弁ではありませんが、やっぱり責任ですね、親としての責任、そういうところをいま一度見詰め直さないといけないかなというふうに感じております。

それでは、きょう私の質問ですが、環境問題について、あと被災地支援、男女共同参画について質問をさせていただきます。

まず、環境問題ですが、東日本大震災で、皆さんも御存じのとおり、まだまだいろんな問題を抱えております。その中で、市長は、我が国は将来に向かい脱原発を目指すべきとの考えを表明していただいております。そんな中に大飯原発再稼働という形で大きな反響がありました。それに対しての市長はどういう見解なのか、お尋ね申し上げます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

大飯原発について私にお尋ねでしたので、この分に絞ってお答えしてもいいですか。

〔4番「はい」〕

大飯原発については、私はもっと慎重にやるべきだったと思うんですね。余りにも拙速。やっぱり納得をして進むプロセスというのはあるべきなんですね。ですので、そういう意味でいえば、橋下大阪市長に全部が全部、この件についても意見を同じくする——うるさい。

○議長（杉原豊喜君）

お静かに、執行部。

○樋渡市長（続）

ですので、私とすれば、やっぱり橋下市長がおっしゃることに全部が全部、賛同するわけじゃないんですね。大飯原発も。しかし、彼が言ったところの、やっぱり一番肝になる部分というのは、もう少し、やっぱり議論をしてから、それを進めるべきじゃなかったかということだと思っんです。

ですので、そういった中で、それがちゃんとできていなかったから、いまだに、あそこの、何というんですか、官邸の前で、私も見たことはありますよ。もう、あれですね、多かときはもう何万人て来よんさあですもんね。ですので、その辺の不平だったり不満が違うところに出ています。私は、それは非常に日本国、日本国民にとって不幸だと思っておりますので、もう少し丁寧なプロセスが大飯原発に関しては必要だったと。現に、やっぱり、これは結果論ですけど、ほら、計画停電も起きらんやったじゃなかですか。

ですので、そういう意味からしても、次の再稼働については、やっぱりもっと慎重なプロセスを僕は歩むべきだというふうに認識をしております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

本当に多くの方がそういう反響を、そういう意見を持たれたんじゃないかなというふうに私は思います。

やはり、大阪市長を初め、京都、滋賀の知事は再稼働絶対反対で、電力は足りる、必要な節電は協力するという形で主張をされておりました。

そんな中に、やっぱり私たちは東北の大震災のときに福島県の恐ろしさをテレビの画像なり、いろんな形で目の当たりにしたと思うんですね。国民は、やっぱり原発がとても危険なものだと、そういうことで知りました。原発事故は広範囲に、水や空気、長年にわたって、それを及ぼすわけなんですね。長い年月、汚染をし続けます。いまだに事故の原因もわからず、事故から1年6カ月たっても収束するどころか、どうなっている状況か、状況さえつかめないわけですね。

そんな状況で、なぜ大飯原発を再稼働できるのでしょうかという形で、いろんな運動がされました。国や電力会社は電気が足りないと言いますが、国民は本当に、私たち武雄市もそうですが、いろんな努力をしていると思うんですね。やっぱり福島のことを考えたり、東北のことを考えたら、みんなでやっていきましょうという機運はとても高まっていたと思うんですが、そこを何か、たった総理の一言というか、そこまでいろんな話がされてきたとは思いますが、とてもこれは情けない話、情けないだけでは伝わらないですが、結果だったと思います。

5月5日から2カ月間は、日本中の原発50基が全て停止してしまいました。でも、どこも

停電はありませんということです。電気は足りていたということです。夏場の午後や数日だけ足りない日があったかもしれないですが、これは国民の努力、そういう形で賄えたという結果も出ているわけですね。

だから、先ほど市長が言われるように、これは本当に、もう少しきちんとした工程表なり政策を立てて、国民全ての人々が納得いくような打ち出しが私は必要だったと思います。

ここに、私は何でこういう気持ちになるかという、もっと被災地のことを思って、いろんな活動をされている方がたくさんいらっしゃると思いますが、いろんな形でチーム武雄で陸前高田に1週間作業をさせていただきました。そしてまた、会派のほうでも状況をですね、あちらの方の状況、大変な状況を知ることができました。そしてまた、1年たって、陸前高田の追悼式にも参加させていただきました。また、ことし7月の初めには福島を訪れて、その被災地の状況もまた伺ってきました。そういう現実を見ていて、やっぱり国民が納得いくような政策を打ち出しているか、本当に信頼というか、本当は何なのか、どこがそういうのを動かしているのか、国民はそう思っている、市長もそう、知事もそう言っているというときに、どこがそれを判断しているんだろうかという疑惑ですね、そういう形が国民に及んでくるんじゃないかなというふうに思います。

いろいろ、原発をつくっている企業、財界から献金を受けている政治家、御用学者、天下りを保障されている官僚とか、いろんなうわさが出てくるわけですね。やはり国民にとって一番安心・安全というものを最優先して、私は政策決定をしていただきたいなというふうに思います。

そういうのも一応、市長の答弁で、市長もそういうふうにお答えしていただいたので、ちょっと安心はしているんですが、じゃあ、武雄がそれをどのように引っ張っていけるのかというと、やはり武雄は武雄なりに、そういう支援をしながら、行動として移してほしいなというふうに思っています。

だから、先進国のドイツのように、2020年には原発ゼロ、そのためには自然エネルギーが50%必要なんだ、そして、どういう助成が必要で、予算もこれくらい要するという形に、国民にきちんとした打ち出しをしなければならないと思います。それと、その努力も国民に投げかけるべきじゃないかなというふうに思います。

市長としても、やはりいろんな批判とかいろんな形で市長も受けられるかもしれませんが、武雄市もきちんと市長がこういう形で主張していただけないと、市民の代表の声ともならないし、これが全体の国民の声にもならないと思うんですね。そういうところで、市長の見解をお聞かせください。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、私は結構主張はしているつもりなんですけど、しかも、余りにも激し過ぎて、よく怒られていますけれども。

この件に関して言うと、私は絶対しなきゃいけないと思っているのは、やっぱり代替エネルギーを加速させる。これは議会でも申し上げましたし、ブログでも何度も書きましたけれども、単に原発をやめますというんだったら、話にならないんですね。要するに、太陽光を中心とする代替エネルギーが産業化するようにしなきゃいけない。

しかも、大企業だけじゃなくて、地域の根を張った企業がそれを引っ張り、恩恵に預かるような仕掛けをしなきゃいけない。という意味で言うと、今、結構もう虫食い状態になってきようですもんね。やっぱり40円を超すあれですよ、売電価格によって、どこもそこももうビジネスだということになっていて、私ね、これじゃいかんと思うんですよ。

昔、農地が荒らされたじゃなかですか。大店法の関係とかですね。で、もう虫食い状態になって、まちの秩序がなくなっているということからすると、やっぱり行政は統一的に、計画的に、ここは行う必要があるだろうということを思って、太陽光のパネルを進めるにしても。

ですので、私はそういう次の仕掛けをしていきたいと思っています。今のままやったら、太陽光パネル市になります、うちは。パネ市になります。ですので、そうではなくて、やっぱりもう少し景観にもきちんと、ほら、吉野ヶ里とかで問題になっていますよね。ですので、そういう気持ちはわかります。ですので、それが何か表に出ないように、しかも、それでいて産業化になって、武雄市といえば自然再生可能エネルギーのまちなんだということで、行政としても、この1年ぐらいかけて仕掛けをしていきたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

本当に、現地に行ったり、福島県の方のそういう思いに添うと、私たちにもできることは最善を尽くさないといけないなというふうにも強く感じるわけです。やはり、この放射能の汚染というのは、長年にわたって収束できないということ、広い国土を汚染し、地域社会をやっぱり壊しますよね。それと、今まで家族仲よく、地域も過ごしていたところが、人間関係とかがずたずたになっていったという、そういうのも伝わってきているわけです。

私がこれを用意しているときに、2日前の佐賀新聞にも、やはり県内にも避難しておられる方がいらっしゃって、いつ帰れるかという心配と、原発事故から1年たっても、その防除とか賠償とか、先行きが見えずという形で、本当に家族がばらばらなんですよね。そのところを、こんなに苦しんでいる人たちがたくさんいるということを踏まえて、やはり政策は慎重に持って行ってほしいなというふうに思います。

私たちに問われているのは、私たちは玄海原子力発電所があります。もう武雄市もいろん

な防災訓練とかで準備していますように、これは本当に福島原発事故からしたら、安全とはもう言えないという事実を見てしまったわけですから、やはり玄海原子力発電所の1号機は始動から37年たっていて、そういう部分で一番危険な原発とも言われておりますので、私たちはその当事者として、もっと真剣に取り組んでいかないといけないというふうにも思っておりますが、市長はどういう見解でられますでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これはもう皆さんと同じだと思うんですけども、玄海原発で、例えば、牟田議員さんのおうちは玄海原発から30キロなんですね。ここの市役所は大体40キロ、一番遠いと言われていた西川登でも50キロなんですね。そういったときに、これは人ごとじゃないわけですね。ですので、もうこれだけ国民世論がなったときに、新たにつくるというのは、もうあり得ないと思います。ただし、これはあと、今あるものを、例えば、1号機とか2号機とかあるじゃないですか。これをどこまで使うかというのは、これは感情の問題じゃなくて科学の問題なんですね。ですので、これはやっぱり、特に1号機、2号機はともかくとしても、3号機以降については、それはちゃんと科学的知見に基づいて、それをオープンにしてほしいという事は思っています。

その中で、科学的知見に基づいて、あと何年もちますとかいう範囲であれば、そこは私は活用すべきだと思っていて、そこでどンドン依存度を減らしていくと。その中で、先ほど申し上げました自然再生可能エネルギーの産業化を進めて、依存度は減らしながら、こっちの再生エネルギーの依存度を深めていくというクロスの状態になっていくのかなというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

そうですね。やはり市長も、そういう形を訴えてほしいなというふうに思います。いきなりストップするとか、そういう形じゃなくて、きちんとした工程を踏まえて、県民に説明するべきだし、もう安全はあり得ないですね。現実を私たちは見てしまったんですから、どんな言いわけとか取り繕いをして、安心・安全はあり得ないというふうに皆さんちゃんとわかっているわけですよ。

だから、やっぱり佐賀県人として、そういう判断が来たときには、市長にきちんとした、そういう見解で臨んでいただきたいなというふうに思います。

まず、大体、日本が再稼働というときに、世界中の、やっぱり注目を浴びていたわけですよ。事故を起こした国がどういう判断をするだろうというところで、いろんな意見が出て

おりました。やはりそれだけはやめるべきだという強くですね、こういう形をテレビとかマスコミで訴えている方もいらっしゃったし、私たちが声を上げないと、何でそういうふうに総理大臣が命を守るためになって、どの命を守るために再稼働するんだらうとか、そういう声がざわざわと上がってくるわけですね。だから、国民が納得できるような工程をきちんと立てて、福島県民、被害に遭った人たちの気持ちが本当に楽になるように、私たちは支援をしていかないといけないというふうに思っておりますので、いま一度、そのところの見解は市長にきちんと持っていただきたいなというふうに思っております。

それでは、次の2番目の再生可能エネルギーについてお尋ねします。

先ほどから、いろいろメガソーラーとか、いろんな形で、また武雄市は九電工の方に若木の、工業団地じゃなかですね、に進出するという計画もなされておりますが、原発を阻止するには再生可能エネルギーをふやしていかないといけないという形で、武雄市はこれからの計画としてどういう形で進めていかれるか、お尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

メガソーラー事業については、これは大きく報道されましたけれども、武雄市若木町で地元の方々の深い御理解によって、本部ダム湖畔工場適地でスタートいたします。これはスタートにしかすぎません。これを皮切りにして、今、東川登であるとか、幾つか進んでいるんですね、内々。進んでいますけれども、先ほど答弁したように、これを虫食い状態にしないようにしようと思っているんですね。

ですので、やっぱり、例えば、東川登町が50%、山内町は10%と、こいおかしかですもんね。ですので、できるだけ武雄市としては、薄く均等にいくように、パネルの設置ならパネルの設置、自然再生エネルギーの比率なら比率というふうにしていくこそが、やっぱり均衡ある発展ですもんね。

その中で、特に私は周辺部に、この分については重きを置きたいと思っております。それが太陽光パネル、なかなか雇用は生み出しませんが、例えば、発送電分離が今後なされるとします。これは、議員さんなんかは多分、発送電分離になるだろうとおっしゃっていて、私もそれに意を強くするところでもありますけれども、そうなったときに、飛行機のLCCと、ローコストキャリアと同じで、この電気だったら2割安かばいということになれば、それはそれで周辺部が住みやすくなるということ、あるいは電気料金、やっぱり高いです。これは例えば、山口裕子議員さんと私とで同じに使ったら、同じ値段ですね。ですが、我々やったらまだしも、御高齢の方がやっぱり高いという話はあるんですね。ですので、発送電分離になった場合に、これはいろんな制約はありますけれども、そういったところは安く供給すると。ライフラインですもんね。ですので、そういったことができないかということにつ

いて、武雄市においては、あした付でプロジェクトチームを、つながる部の中で発足をさせますので、その中で研究をしていながら、できればSPC、特定目的会社ですね、というところも設立も視野に入れながら、プロジェクトチームを発足させて、研究を進めさせたいと思っています。

その中で、先ほど言いましたように、例えば、ここは九電工さん、ここは九州電力のエコソルさんとか、ばらばらなってはだめです。ですので、市が一体となって、市民の皆さんたちに説明をきちんとしながら、太陽光エネルギーを中心として、私はぜひ進めていきたいと思っています。

ですので、若木の今度のメガソーラーの事業というのは、非常に注目が集まります。これは前、答弁をいたしましたけれども、教育用としても活用したいと思いますので、ここがやっぱりうまくいくことによって、第2、第3の弾みになっていくということを思っておりますので、ぜひ議員の皆様方の御協議もお願いをしたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

ありがとうございます。

そうすればですよ、私もちょっとまだ勉強不足ですが、市長が言われた発送電の独立というか、分離というか、そういう形というのは、やはり地域から打ち出していくことができるのかなというのを感じますね。やっぱりこのところを独占しているから、なかなか何か太陽光発電とかいっても結果が見えないし、じゃあ、これを自由な市場にしていくには、地域からそれを行っていくというか、そういう訴えをしていくというのは可能なんでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、これこそね、ぜひ地域から、やっぱり声を上げていただきたいと思うんですね。

それで、ただ、これは法規制によって、発送電一致というのは今決まっています。ですので、これは我々が市議会では議決権、これはありませんので、県議会でもありません。あるのは、もう国会だけなんです。ですので、今度の総選挙の大きなテーマがここにあると思っていますので、ぜひ発送電分離については、これは与党も野党もありません。積極的にやっぱり行ってほしいと。そうすることによって、さらに産業化が進んでいくと。

ただし、この場合、欠点が2つあるんですね。1つは、確実にコストが高くなります。今ですら42円の売電価格で、やっぱりかなり高くなるって言われているんですね。ですので、発送電分離にすると、さらにまた高くなります。これが国民の皆様方が、こういう厳しい経済状況の中で、それを合意していただけるかどうかということと、もう1つ、安定性なんで

すよ。やっぱり東京電力も九州電力も、電力の質はピカーです。もうロールスロイス並みです。

というのはどういうことかという、これはある韓国の電力会社の人と話したときに、日本の電力というのは、特に東京電力の場合は、300メートル先のコンビニに、あんだ、ロールスロイスで行きようごたあもんばいということで言われたわけですね。ですので、韓国は、物すごいいいですよ、いいですけど、そこまでよくする必要はないでしょうということで、日本よりも、地域によりますけれども、3分の1の価格なんです。ですので、我々は、ローコストキャリア、飛行機と一緒にすよね。というのは、安全性とかというのはきちんと担保しつつ、継続するというよりはきちんと担保しつつ、発送電分離になった場合には、それはします。

ですが、ごめんなさい、長くなって。アメリカのカリフォルニア、十数年前に、あそこは発送電分離です。電力会社もたくさんあります。そこで、大規模停電が起きたわけですよ。そこで、やっぱり日本でこれば進めとうな経産省とかいろんな方々は、あがん南カリフォルニアんごとなったらたまらんろうもんということをやられますので、そういう、やっぱり他山の石なんです。それを学びながら、どういうふう、大規模停電が起きないかということも含めて、我々はプロジェクトチームで、さっきも事例も出しましたので、しっかり1年間ぐらいかけて、やっぱり準備をしていこうと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

やはり幾ら再生可能エネルギーといっても、やっぱりそういう問題点を、どこがネックなのか、どこを改善すれば進んでいくのかというふう、やっぱりチェックしていかないといけないと思うんですね。そういう意味で、市長が率先して、そういうことを提案していただけるというのはありがたいと思います。

また、私もドイツのほうでいろんなことを勉強に行かせていただきましたが、やっぱり電力の自由化というところで発送電の分離ですね、と自然エネルギーの優先買い取りですね、そういうところで、やっぱりその義務づけによって自然エネルギーが爆発的に普及されていくという結果が出ているので、やはり市としてもそういう形を積極的に打ち出していきたいというふうに思っております。

また、こういう再生可能エネルギーには、風力発電とか太陽光発電、あと市長も前のとき言われましたが、地熱発電、あと小規模水力発電、この小規模水力発電も結構いい電力が得られるというふうにも聞いております。また、バイオマスの発電とかありますが、市としては、エコビレッジ計画なども市長は言っていた聞いておりましたが、今後、そういうのを取り入れながら、どういう形でさらに進めていくか、また、これを武雄市からロールモデルと

してしっかりと発信していただきたいなというふうに思っておりますので、そこら辺の見解をお聞かせください。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

現在、地熱を利用した御家庭が武雄市内に2件あります。そこは、プライバシーがありますので、どこどこというのは言いませんけれども、そういったところがお許しいただければ、どれぐらい電気代が減ったかとか、どれぐらい快適かというのは調べていきたいというふうに思っています。

ただ、その業者さんが県内1つ、長崎県に1つなんですよ、この近場だと。ですので、ちょっと、おおよそ、まだ普及のスタートラインに実は立っていないんですね。やろうと思っても、それぐらいしか業者さんがありませんので。そういった意味からして、若木町に今計画をしている太陽光村に、ひとつ実験的に、全部の世帯とは言いませんけれども、地熱のありますよということも含めて出していきたいと思っています。

ですので、非常に大ざっぱに申し上げて恐縮なんですけれども、私は、太陽光が大体7割、地熱を含めて、そういったものを、バイオマスとか含めて3割で進めていくのかなと思っています。これについては、ぜひ議会のほうから、いや、これはもっとこうすべきだということをおっしゃってほしいんですよ。先進地に御視察行かれたときに、例えば、この町だったらこうだったばいとか、例えば、群馬県の太田市であったりとか、先進地が幾つかあるんですね。それはぜひ我々にまた教えて、そのときは職員ももうくっつけます。やっぱり、もうそれがまし。やっぱり議員の皆さんたちだけ行くぎんた、どうしても間接的になるし、議会の皆さんたち、うちも視察をいっぱい受け入れていますけれども、やっぱり職員さんも同席、このごろ多かですもんね。そいぎですね、あとは行政同士で話のでくっとですよ。それが早い。

ですので、今後、そういった視察、全部が全部とは言いませんけれども、ぜひ職員も帯同させていきたいと思っておりますので、その中でまたいろんな情報を教えてくだされば助かります。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

そうですね。一緒に進めていかなければいけないと思います。

また、大なり小なり、そういう努力は武雄市も行っているところですが、やはり私が言っておりましたグリーンカーテンとかが、先月、宜野湾市議会がこちらのほうに研修に来られ

たときに、懇親会を持つことがあって、そこに同席させていただいたんですが、まず初めに、着いたときに、あのグリーンカーテンのお見事さにびっくりしましたということだったんですね。その市議会議員の方に呉屋さんというお名前の方が2人いらっしゃって、あちらはゴーヤという形で呼ばれていますが、あのゴーヤのすごさは、温暖化というか、そういう大分、マイナス何度とかいうぐらいに貢献しとるばいとか——ばいとかわれなかったですけど、そういう話で盛り上がりました。

やっぱりそれは、いろいろ言っても、小さいそういう取り組みを続けていって、そして市民もそれについてこられるものだと思うんですね。その節電の方法とかあり方を、やっぱりこの庁舎から発信していくというのは重要な問題だなというふうに思っております。

だから、庁舎内の温度を28度に設定するためにも、ウルトラクールビズで皆さんが頑張っているとか、いろんな形で打ち出していると思うんですね。それを、やはり市民の方に、こんな方法があります、節電の方法にこういう努力をしていますとかいうのが、意外といろんな雑誌とかでも見かけるんですが、やっぱり武雄市に唯一、広報紙がありますので、そういう中でコーナーを設けて、こんな節電の方法が意外と効果があるとか、こういうのに職員の方とか一般の方がこういう努力をされているとか、そういうものを市報に知らせるという方法があると思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

そうだと思います。節電の方法のみならず、今、市報はもう抜本的にあり方を変えましたし、賛否両論、実はあるそうなんですけれども、基本的にはいい方向に進んでいると思いますので、そういった中で、市民のお声とか、あるいはこういう節電のものがありませんよとかというのは、もっと伝わるようにですね。大体、行政がすれば伝わりませんもんね。ですので、わかりやすく、親しみの込めるようなコンテンツをしていきたいというふうに思うんです。

特に、先ほどのうちのグリーンカーテンは、環境課の樋渡さんが始めた話なんですね。まあ、1人じゃないんですけど、始めて、最初、物すごく苦勞があったんですよ。最初、適当とは言いませんけど、見よう見まねでやっておったら、種の植えつけが深度が浅くて、上に引っ張られていったとか、やっぱりいろいろあるんですね。そういった苦勞話も含めて入れることができれば、それはなお伝わると思いますので、御指摘は十分に踏まえたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

やはり大きく打ち出してもらおうのと同時に、そういう小さな積み重ねが自然エネルギーの形に転換できていくんじゃないかなというふうに私は思っております。

やはり市民は、いろんな努力をされていますね。本当、熱中症にならないようにクーラーはつけましょとか、逆にお声がかかるぐらいにいろんな形で節電とかをやっていますので、市のほうもそういう発信をお願いしたいなというふうに思っています。

それでは、環境の中の3番目です。異常気象の対策についてお尋ねします。

これは最近、本当に高温注意報とか、いろんな形で異常気象だなということを感じられると思います、皆さんもですね。何があるかわからない。夕方どきにびっくりするような雨の降り方とか、雷とか、雷で命を落とすとかニュースもいろいろありますが、やはりここ最近のこの異常気象に対しての対策は、折々、いろんな形で行政も打ち出していないといけないんじゃないかなというふうに思います。

私がたまたま8月の終わりに、鹿児島島の平川動物園に行くことになりました。動物園で、この夏の暑いときに動物はどうしているんだろうかというのもありましたが、いろんな努力をされていて、動物にも時間定期的にシャワーが、水ですね、噴水が回るようになっていて、それで動物も少し元気になっていて、あと、そこに来場する私たちも、お客さんも、ずっと歩いていくと、ところどころに水の、ミストというんですか、霧のようなミストがずっと当たるようになっていてですね。やはりこういうふうに異常気象、高温化になってくると、いろんな対策があちこちでされているんだなというふうに感じます。また、開園時間も夜を長くして8時までとか、10時までとか、いろんな形で対策が練られているようです。

だから、学校とかも、本当、時間帯とか、余りこの時間帯が暑いとか、部活の子どもたちとか、そういうのに、やっぱり対策を練らないといけないんじゃないかなというふうにも思っております。ミストとか、学校にでも、霧のようなのがところどころにあると、子どもたちはそれで体を冷やすことができたりとかいう、これからの対策じゃないかなというふうに思いますが、そういうところの見解で意見がありましたらお聞かせください。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

おっしゃるとおり、最近では異常気象で大変暑くなったり、集中豪雨だったり、いろんな局地的な豪雨等もあるわけですがけれども、部活等におきましては、やはり我々が若いころについては運動するときには余り水を飲まないようにとか言っていましたけれども、最近では水をとったり、あるいは塩分をとったりと、そういった対策もとられているというところですし、そういったものを今後も進めていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

そうですね、いろんな対策はとってあると思います。私たちが学校に学ぶころは、扇風機もなかったし、まさかクーラーが入るような時代になるとは思ってもいかなかったし、いろんな形で対策をとっていただいているんじゃないかなというふうに思います。

あと、ここで私が1つお願いしたいのは、これは高温対策で私は言っていたんじゃないですが、フロンガスの放流でオゾン層が破壊されて、悪性紫外線がとて強くなっているから、乳幼児とか皮膚の弱い方たちは十分に気をつけないといけないという環境対策みたいなので1つ提案させていただいていたのが、モニターですが、いいですか。（モニター使用）これは山内町の子どものプールなんですね。ここに、山内町時代、町議だったときもお願いしたんですね。新市になっても、市長、どうでしょうかとお願いして、やはりここにテント、休憩のところにテントを備えてもらったりしたんですね。あと、今の高温で下が歩けない状態になるんですね、ここが。ちゃんとプールの周りに、こういうシートが敷かれているという対策もされています。

それで、市民の方から、これは有田からも来られるし、いろんなところから、利用料金も安いし、子どもたちはこれだけ暑くなると水で戯れたいと思うし、ここに連れてこられる方が、やはりおじいちゃん、おばあちゃんだったりとか、ここに屋根があったらよかとやけどねという相談をされます。おじいちゃん、おばあちゃんももちろんですが、子どもたち、ここは乳幼児ですね、皮膚がとて弱い子たちですね。だから、そういう対策として、これは8月の終わりなんですけど、もうぎらぎらですね。水が好きだから、なかなか上に上がったりしませんね。

だから、お母さんたちが注意しないといけないのは、今は長袖の水着が売ってあったりとか、皮膚を守って水遊びをするような形が打ち出されていますので、親御さんたちもそういう注意はしないといけないと思いますが、市としても、ここに、市民の方から屋根があったらなという声も出ていますので、そういう形にはならないかなというふうに、ちょっとお尋ねしたいんですが。

ここはとて利用者が多いです。これが50メートル、これは大人の方が利用するのに、ここも多いです。浮き輪とかいろんなものが使えるようになっているから、保護者と一緒に、こうやって小っちゃい子も遊んでいますけど、こんな形ですね。利用者も多いですし、ここに本当に屋根をですね。前回のときは、そのお金が余りにもちょっとかかり過ぎるのでという形で、ここに1つテントをですね、休憩です、これ。できたわけです。

一応、高温注意報とか、そういう状況が変わってきていますので、そういう点で、市としてはどういう対策ができるか、値段的にもう少し簡易的にできるんだったらしてあげたらどうかなというふうに思っていますが、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

議員御指摘のとおり、山内中央公園のプールにつきましては、全体で、23年度においては1万人弱の御利用をいただいているということで、大変活用していただいているというふうに思っております。

山口議員の御指摘により、平成22年度からはテントを張ったり、それからシートを張ったりと、そういった対策もとっておりますし、あずまや等もございますので、休憩等をとって、直射日光を常に浴びるのではなくて、あずまやに入ったり、プールに入ったりと、そういった対策をとっていただきたいというふうに思っております。

それから、お父さん、お母さん方には、子どもさんにスイミング用のキャップをかぶっていただいたり、それから麦わら帽子等も活用していただくと、そういったものをやっていただきたいというふうに思っております。

ちなみに、県内の10市、調査いたしましたけれども、プールに屋根があるというところは今のところございませんでした。

そういった状況ですので、当面、そういう紫外線の対策等々につきましては、先ほどのようなことでやっていただけたらありがたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

調査不足で、県内にはないということで、今度、新しくできたりとか、そういう形では、こういう対策で屋根が設けられているというのは聞いておりました。県内にはないということですね。

もし本当に、それは親御さんたちが気をつけたり、子どもはかかわる人が守っていかないといけないかもしれないけど、予算があれば何とかここに屋根というか、日よけをつけてあげられたらいいなというふうに思っておりますが、市長、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

基本的に、屋根についても、コストの問題もあるんですけど、安全性の問題があるわけですね。ですので、私は今のプールのところの上というのは基本的には反対です。やっぱり安全性の問題と、それとコストなんですけど、プールは、これ2つ、子ども用と、もう1つは50メートル、合わせて年間1,000万円以上かかりようわけですよ、維持するのに。しかし、収入は90万円ぐらいだということになりますので、やっぱり我々からすれば、これはプールというのは非常に大事だと思っております。その上で、ぜひ、先ほど部長からあったように、

自分で紫外線対策を行っていただくのと同時に、私から最後にしますけれども、今、屋根がありますよね。これをもう少しふやそうと思っています。こういう、ばらばらするのではなくて、もう少し屋根の、何というんですか、日陰がきちんととれるように、角度等も考えながらやっていけばいいのかなと思っています。

それと、あと、ぜひ時間帯を考えてほしいと。

〔4番「そうですね」〕

やっぱり紫外線の、何というんですか、強度については、やっぱり昼間なんですね。ですので、やっぱり夕方だったりとか、例えば、もう少し朝早くであったりとか、そういうふうに自分で自分の身を守るということについても、ぜひ御利用者については考えてほしいなど、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

はい、よくわかりました。でも、このように高温化になってくると、もう子どもたちも、本当に大人たちも、どこで子どもを遊ばせようかなとなると、こういうところが一番長いこと楽しめるという形で、こういう意見もありましたので、伝えさせていただきました。

やはり紫外線の被害ですね、悪性紫外線とか、利用の仕方とか、そういうのはできるだけ市のほうからも保護していただけたらというふうに思います。

それでは次に、被災地支援に入ります。

先ほど議員さんの一般質問とすっかり重なっていたんですが、私なりに被災地支援という形で質問をさせていただきます。

先ほども私が言いましたが、4回ほど現地に行くことができましたが、やはり地元の方は、もう忘れないでほしいというふうに強く訴えられます。そういうためにも、武雄市は率先して被災地支援をしているんじゃないかなというふうに思います。チーム武雄も100人以上の方が昨年は参加して、ことしはどのような被災地支援があるんだろうかというふうにも思っているところに、9月の市報で参加呼びかけが出ておりました。

また、ことしになって、被災地支援という形で職員の方も送られているみたいですが、あといろんな学校の交流とか、そういう話、市報にも載っておりましたが、ことしになって全体的に被災地支援というのをどのような形でされているのか、具体的にありましたら、お知らせください。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

パネルをお願いします。（モニター使用）これは去年からなんですけれども、チーム武雄

ということで、こういう形で、実際もう現場に入ってやっていただいています。これは職員さんであるとか、市民さんであるとか、議員さんであるとか、やっていただいています。

ことしなんですけれども、熊本市での豪雨につきましては、延べで市民の皆さんたちが36名、市職員が26名、合計、延べ62名を派遣させていただいて、別枠で議員さんが4名（61ページで訂正）ということで行っていただいております。民家の床下の泥のかき出し等を行っていただきました。

先ほど議員から御指摘があったように、澄ました顔で映っているのが古賀龍一郎でございます。これは、陸前高田の広報5月号に職員の紹介ということで、こういうふうに向こうでも、本当に一生懸命やっていて、市民から結構、古賀も上田も人気者なんですね。やっぱり顔が九州系ですので。ですので、非常にそれはうれしく思っています。

ですので、単に職員の中だけじゃなくて、今、市民との交流が、この2人が陸前高田の市議会議員に立候補したらどうしようかなと思っております。そういった意味で、こういう職員がこうやって頑張っているということ、上田哲也ですね、人柄です。

ということで、こういうふうに見ええる支援を市民の皆様方、職員、そして議員の皆さんとともにやっているというのがことしの中身であります。これは去年に引き続いて、去年の反省点とか課題を踏まえながら、地元ニーズに即して行っているというのが実情でございます。

それと、すみません、もう1つが、大人だけじゃなくて、キッズボランティアということで、7月23日から25日、東川登小学校の児童10名、引率者3名が仙台市を訪問して、実際、小学生と交流を、で、帰ってきた小学生が行ってよかったと、やっぱり言うわけですね。今までテレビでしかわからんやったけれども、実際、親を亡くした子どもとかと触れ合ったときに、自分たちも何とかせんばいかんということを思っています。

それと、これは議員から指摘がありましたように、キッズタウンステイ、ことし、福島の子どもたち、郡山市の子たちを予定しておりましたが、向こうから北部九州豪雨のため心配をされて、自主的に断念をされました。それと、タウンサポート「チーム武雄」ということで、10月19日から3泊4日で陸前高田に太鼓フェスティバルということで、現在ボランティアの皆さんたちを募集しております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

いろいろな支援がされているということがわかりました。

先ほどもおっしゃっていましたが、私もSTSのニュースで武雄市の職員が頑張っているのを見させていただきました。本当にうれしかったですね。それと、誇りにも思え

たし、わあ、これを皆さん見ていただいているかなというふうにすぐ思ったものです。それと、西日本新聞の「ひと」の欄に載ったというときにも見させていただきました。

やはり私たち市民としても、本当にこんな頑張っている職員がいるということをもっと知りたいと思うんですね。だから、市長もきょうの昼からSTSの番組を見ようと言われたように、私は私の考えで、ぜひとも、生活が向こうで大分なれてこられたと思うし、いろんな活動が根づいてきていると思うので、やはり武雄市の市報で、1カ月置きでも、あと残されている時間あると思いますので、やっぱり、こんな活動をしているんだとか、こういう支援が欲しいなとか、こんなふうに地元の人には困っているんだというようなコーナーとか、被災地支援というところをつくっていただいて、生の声をやっぱり私たち武雄市民に伝えてほしいなというふうには思っていますね。

それと、先ほどはSTSを流すと言われていたんですが、やっぱり市民はケーブルテレビというのをよく見ているので、やっぱりケーブルテレビの中でチーム武雄が頑張っている様子が流れたように、やっぱりそういう中で流していただくというのが、ああ、すごいわ、そして武雄市を誇りに思えるとか、そういうのが市民が一番わかりやすいんじゃないかなというふうには、一体感があるとか、人ごとじゃなくって。そして、やっぱりこれを風化させないように、いつまでも忘れないで支援をしようという気持ちが必要なので、もう武雄市だけであってもいいじゃないですか。ほかの温度差があっても、武雄市は、市長がやっぱり先ほど言われたように、私も思うんですが、やっぱり困っている人には、本当に、いろいろ言いわけは要らないと思うんですね。手を差し伸べるというのが私たちの気持ちじゃないかというふうには思いますので、こういう提案をさせていただきましたが、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、市報につきましては、年内に2人を特集という形でぜひ出していきたくと思っています。年内に出していきたくと思っています。

それともう1つ、ケーブルテレビについては、これはケーブルテレビさんが自主的に行われる話なので、我々がどうこう言う話ではないんですけども、去年の秋にチーム武雄でケーブルワンの青木さんが来てもらったんですよ。実際、自分もボランティアをしながら撮影隊ということで入っていったときに、それをやっぱり自分でみずから編集をして、30分番組で流された。これが非常に市民の皆さんたちから好評だったんで、今回もできれば、10月にチーム武雄として参りますので、その際にケーブルワンの青木さんに帯同願えればありがたいなと思って。あの人は、やっぱりいいですね、あの人。いいです。僕にも是々非々で来ますので、僕は大好きです。

ですので、そういうふうと一緒に来てもらって、それをまた帰ってきたときに、青木さんの一流の編集でまた流していただくと、議員が御指摘のあったように、もっと一体感が出てくると思います。そういう意味では、地元のケーブルテレビの果たす役割というのは非常に大きいと。きょうは傍聴席にもケーブルワンの社員の方がお見えですので、それは、まあ帰ったらすぐ伝わっていくと——もう今伝わっているか。と思います。

それと、ちょっと修正ですけれども、先ほど議員の中で、議員数4名と申し上げましたけど、3名の誤りですので、これはおわびをして訂正したいと思っております。

その一方で、あとは、ぜひ議員の皆さんたちにお願ひがありますのは、例えば、集会であったりとか、そういった中でどんどん、こういう状況だということをお伝え願ひたいんですね。そうすることによって、地元の人たちがもっとわかりやすく、ああ、こういうまだ支援があるよねということになりますので、ありとあらゆる機会を持って、議員の皆さんたちには、それをぜひ願ひしたいということをお思っております。

いずれにしても、ケーブルワンは死角でした。刺客じゃないですよ、死角でした。ですので、それはそうかなと思っておりますので、それはよくちょっと話し合っ、またやっていきたいなど、このように思っております。ありがとうございます。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

やはり人が困っているときに手を差し伸べるということが基本ですね。いろいろ、今、いじめとか、命を落としたりとか、大人のモラルのなさで飲酒運転で事故の被害に遭ったりとか、いろんな問題が出ておりますが、やっぱり市長も人を助けるために一生懸命になったり、大人たちがこういう形で動いている姿が子どもたちを育てていくと私は思うんですね。だから、やっぱり助け合うということとか、命の大切さというところで、今一生懸命、大人たちが動くときじゃないかなというふうに私は思います。そして、その姿を見て、子どもたちが、ああ、いじめとか、困っている、苦しんでいるという形を見て、皆が助け合わないといけないう手本になるような大人たちの姿を見せないといけないうふうに思っておりますので、どうかしっかりと武雄市から発信してほしいなというふうに思います。

最後になりました。男女共同参画についてお尋ねいたします。

武雄市男女共同参画市民意識調査が出ました。よりよく男女共同意識ということで、「男女がよきパートナーとして共に築くゆとりと活力ある武雄市を目指して～」という形で調査が行われておりますので、男女共同参画に対しても、もう既に、そういういろんな格差はないとか、いろんな声も上がってきておりますが、結果を見て、調査の結果、武雄市はどのような男女共同参画ですね、結果が出ているのでしょうか、お尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

（モニター使用）すみません。モニターの使い方が不十分で、左のほうが二重に映っておりますけれども、メインのほう、この広いほうで説明をしたいと思います。

男女共同参画社会のアンケートの今のところの代表的な数字ということで、どのような解釈をするかということでお示しを、代表的なものを示しております。

上段の部分は、上のほうは、女性の社会の進出ということで、勤労の状況ということで、平成18年と平成23年の比較という形であらわしております。5カ年でですね。これを見ますと、女性の就業率につきましては約10%アップしているというふうに見られます。下のほうですけれども、この下のほうが意識調査ということで、黒線で横に引いておりますけれども、その上の部分、意識調査の1つ、1番目……（「ちょっと待って」と呼ぶ者あり）文字が小さいですか。（発言する者あり）

〔4番「もう言葉で言われたら」〕（発言する者あり）

すみません。これ以上、大きくなれないということで。申しわけございません。

〔4番「言葉で説明してもらっていいと思います」〕

はい、口頭で。

先ほど申しましたように、上のほうは就労状況についてということでございます。意識のほうは、下のほうの黄色いほうのグラフということで、2種類準備をしました。ちょっと文字が小さいですが、黒線の上のほうの2つ、これについては食事の支度を誰がするかという、その2カ年の比較表でございまして、上のほうが平成18年、下のほうが23年、先ほどと同じように5年分の比較という形でしております。黄色の部分が、主に女性というところであります。それから、その次のオレンジの部分が同じ程度、男性も女性も同じ程度という部分であります。ブルーが主に男性ということであります。これを見ますと、5カ年たっても主に女性というのはほぼ変動しないと、オレンジの部分、男性も女性も同程度にするという部分が増大しているということでもあります。

ちなみに、じゃあ、一番右のほうの、右から2番目のウグイス色のところですね。これは何やったとやろうかという話になりますけれども、その他に、例えば、お母さんとか、おばあちゃんとか、あるいは頼まれた人とか、そういうその他の事項というのが出てきております。

それから、下のほうが3つに分かれておりますけれども、掃除、洗濯ということで、平成18年時点の調査では、掃除、洗濯というのが一くくりのカテゴリーでありましたので、1つになっております。23年度の調査は、掃除と洗濯を分けて調査してございます。そういうことで、3本の線になっておりますが、これも同様に、黄色が主に女性、オレンジ色が同じ程度ということで、これも傾向的に言いますと、主に女性という部分が余り変わっていないと、

オレンジの部分がふえつつあると、こういうことでございます。

こういうことで、意識調査の結果から言いますと、女性の社会進出というのはずっと5年の間でも進んできておりますが、意識のほうはほとんど変わっていないと、若干、男性も女性もという傾向は成果としまして出つつあると、このように認識をしております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

意識が余り変わってきていないという結果だったのか、よくわかりませんが、皆さんはやはり男女共同参画というところでは、お互いが助け合って生活をするという基本のところでは、もう女性が仕事をしている場合、ごみ捨ては行ける人がするとか、あとは家事も得意な人がするとか、そういう形は意外と耳にするようになられたんじゃないかなというふうに思います。

あと、女性たちは、やはり母親として、仕事に臨むときに、やはり私はこれ大事だと思うんですが、やっぱり母親の役割として子どもを産んだら母乳を与えたりとか、しっかりと子どもにかかわらないといけない部分があるので、やっぱり社会進出とか仕事の部分には物すごくハンデがあると思うんですね。それを協力し合って、いい形になっていけばいいなというふうに私は思っているんですが。

それと、こんな中、女性が社会進出しやすいようにという形で男女共同参画が設けられたり、あとは男尊女卑という昔からの風習とか慣習をなくすために、意外とウエートがあったと思うんですが、今はアバンセのほうで男性総合相談というふうに、男性もやっぱりこれ、ともに生きていくというところで、相談が多いというふうに、新しい、いい相談窓口が設けられていますが、ここら辺がすごく変化の一つだと思うんですが、いかがな見解をお持ちでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まあ、それほど女性が強くなった結果だと思いますよ。まさか、この世の中で男性相談ができてくるとは、夢にも思わず。今度、私も行ってまいりたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

それでは、そろそろ武雄市の男性総合相談という形が必要になってくるんじゃないかなというふうに思いますが、そんなふうに変わってきたわけですね。

女性が審議会とか、そういう会に何%の人が参加しているとか、そういう数字で見ると、

なかなか出てきません。それが大きく改善されたりはしません。それは、いろんな問題もあるんですね。で、全然器じゃないのに職員さんが、幾ら係長から部長に、部長を何%ふやす、武雄市は何人いますかといったって、それに値しないのに女性進出という形ではできませんし、私のような議員だってそうだと思うんですね。だから、そこで数字がなかなか伸びないということは、いろんな社会状況が改善されないと、それも時間がかかったりということはよくわかるんですね。

ところが、前回は投げかけさせていただいたんですが、地域によっての区の作業があります。区の作業がですね、共同作業というのが。社会状況が本当変わってきました。高齢化ということで、若手の次世代がない、そして母子家庭とか、いろんな形で女性しかいないというときに、区によって、出不足金があるなしはいいでしょう。やっぱり大変な作業をしていくわけですから。でも、男性は払わないのに、女性が出たときに不足金を払うという形が残っているということに対して、まだ改善がなされていないということに対して、どのようにお考えか、お尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

平成16年度、旧武雄市の時代でございますが、そのときから全区長さんを対象に、地域役員の男女の割合と、公役、総会などの出不足金の実態調査ということを毎年実施をしております。

このデータで見ますと、平成18年度は、男女差がある地域が32地区ございました。平成23年度、直近の調査では17地区に減少しているところでございます。

また、会議、総会時の出不足金の男女差は全ての地区でなくなったということで、会議については全てなくなったということで調査結果が出ております。

この結果から申しますと、その出不足金の差ということについては、かなり進んできているのではなかろうかというふうに思っております。まだ17地区ということで、若干残っておりますが、それぞれの地域でいろいろ検討は進んでいくものというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

そのうちなくなっていくでしょうという形ですが、やっぱりこれ人権としてですね、やはりもっと考えないといけないというふうに思います。

どうでしょうか。男性が元気に働いていても、病気になったり、出張があったりして、その日に男性がいないときに、女性はその作業に入りました。今、女性も強くなったとか言われますが、私だって草払い機で作業しますし、そういう同じように作業して、女性が出たと

ということで、さらに不足金があるというのは、とてもおかしいということを皆さんがおっしゃるんですよ。

それと、今報告にあったように、まだ総会とかに女性が出たら、女性の不足金をいただいているところがあったということ自体、それはもう改善されたようですが、やっぱりそういうのは誰が聞いても、人権としておかしいなというふうに思いませんか。

私は、こんなふうに少子・高齢化が進む中、地域が協力してやっていかないといけないときに、女性だから、こういうお金を払わないといけない、そういう状況にあるとなったら、母子家庭とか、いろんな形で頑張っている人が地域に協力しようとして出ました。そのときに、女だからといって、そういうのがあるというのはどうでしょうか。

せめて、武雄に男女共同参画課というのがあったら、ここは前に進むことができるんじゃないかなというふうに思います。女性が審議数にどれだけ参加するとか、そういうのはなかなか改善されなくても、こういう地域において人権として差があるというところは、すぐにでも見直すことができるんじゃないかというふうに私は思いますが、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

僕も、この風習はおかしいと思います。男女共同参画課もおかしいというふうに言っています。ただ、その一方で、これは行政が、じゃあ、こうなさいというような話とは、ちょっと違うと思うんですね。ですので、我々は我々でおかしいというのは言い続けていきますけれども、ぜひ、これ多くの皆さんたちが、女性を含んで、ごらんになっておられますけれども、地区で、あるいは隣近所で、この件についてはぜひ話し合ってほしいと。要は、これで当然だと思っている人たちもたくさんいるんですよ。何で一緒にせなばいかんとていうとは、女性の方もおっしゃる方がいるんですよ。だけど、それはおかしいということについて、我々はもうこの議会でも何度もおかしいというふうに言っていますしね。ですので、その中で、ぜひ自分の身のこととして、自分の地域のこととして、ぜひ考えてほしいなということは思っております。

その一方で、行政が果たすべき役割というのは、先ほど総会参加の件もそうだったんですけども、我々は、いや、こういうふうに改善しましたということについては、どんどん言っていきます。ですので、例えば、ある地区がこういうふうに変ったということであれば、そこに変わったプロセスとか過程とかというのは我々は知る立場にもありますし、言う立場にもありますので、それは積極的に申し上げていきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

私は、やはり男女共同参画課という課があって、ここを改善できないものかというふうに、強力的に指導するわけにはいかないというのはよくわかります。しかし、世の中、本当に少子・高齢化ですね。次世代と一緒に住んでいる人が少なくなった中に、大変これは改善していかないといけない問題ではないかというふうに思います。やはり中山間地とか急斜面で作業が大変なのを、男性がいて女性を出しているわけないでしょう。働ける男性がいたら男性が出るわけなんですから、やっぱりそういうところを踏まえて、そんなふうに働ける男性がいるのに女性を出してとか、そういうモラルのないことは地域でもやっていないと思うので、やはり助け合いの社会という形でいけば、ここは改善していかないといけないというふうに思います。

また、ある地区では、もう75歳以上の人は出なくても、そういう不足金はいただかないという高齢化に対する対策もとられているし、時代時代によって、こういうところは変わってこなければいけないんじゃないかというふうに私は思っています。

だから、男女共同参画も、もう課も要らない時代が来て、やっぱり人権として問題等、対策を練っていけばいいというふうになれば一番いいんですが、私としては、地域によっていろいろなこういう差があります。こんなことがありました、こんなことがありましたは言いませんが、やっぱり男性だったら許されるのに女性はだめだとかいうのがまだまだたくさん残っていますので、これは男女共同参画課が一生懸命、意識調査をすることによって、皆さんの意識を上げる努力もされているし、市長もそのように伝えていくということなので、みんな考えていく問題ではないでしょうか。

いま一度、こういう差がないように行政としてもやっていってほしいなと思いますので、市長の見解を最後に聞かせてください。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

やっぱり、この問題こそが広く議論すべき話だと思うんですよね。家庭の中でも、地域の中でも、あるいはこういう議会の中でも、やっぱり議論して、そこで一致点を見出していくということが大事。そうしなければ、もうこれが、因習というのは、気づかなくて、これは当然だと思うのは因習なんです。ですので、そうじゃないよということ。その上で、考えた上で、やっぱり自分はどういうふうにしようかと、この地区はどうあるべきかというのを、やっぱり万機公論に決すべし、やっぱり多聞第一、私はそういうふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

そうですね。みんな本当に武雄市もよくなるように、この日本がよくなるようにとって、男女がともに助け合って頑張っているところでもありますので、どうか、こういうところの改善をして、この姿が子どもたちにいい形に映って、やる気のある人たちがどんどん出てくるような社会にならないといけないというふうに私は思っております。

これをもちまして私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。